

環境eラーニング

富士通 国内外社員を対象

富士通は、社員の環境活動への主体的な取り組みを促すなどを狙いに、グループをあげた環境のeラーニングを国内外でスタートした。なかでも環境の基礎知識を習得するコースは、9つの国・地域のグループ会社100社の社員を対象に世界規模で実施。今年12月末までの期間中、合わせて約13万5000人の社員が受講することになる見通し。

11カ国語の教材、13.5万人受講

富士通グループは2011年3月に、環境管理「グローバル統合認証」を取得。また、今年4月「第5期富士通グループ環境行動計画」を策定した。今後3年間の環境

今回、グループでe

ラーニングを展開するのは、社員の環境マインドを高めるほか、これらの新たな枠組みや方針について理解を促し、目標などを着実に実行する狙いがある。

環境eラーニングは、「FUJITSU Next Campus」と呼ばれる内外のグループ社員向けの教育システムを使って行われる。全世界の

富士通グループ社員向けの「基礎コース」と、国内のグループ社員を対象にした業務別の「設計・製造コース」（研究、開発、設計、製造部門）、「営業・システムエンジニアコース」（営業、S E、スタッフ部門）によって構成。

「基礎コース」では、地球を取り巻く危機的状況や環境問題に対する世界の動き、富士通グループの環境への取り組み、個人が職場や暮らしの中でできる環境対策などを広く学ぶ。また、「設計・製造コース」では、環境配慮型製品設計を通じて顧客への貢献や、内外の法規制、製品の含有化学物質規制の順守、工場

における環境負荷低減の重要性など、「営業・システムエンジニアコース」では、顧客の環境負荷低減の促進、ソリューション分野の環境行動計画などについて、それぞれ知識を習得する。

「基礎コース」は全世界で13万5000人が受講することから、11カ国語の教材が用意されるといふ。

同社ではこうした教育をeラーニング方式で実施することによる環境負荷の低減効果も試算した。それによると、社員を会場に集めて行う従来の集合教育に比べ、約5000トンの二酸化炭素(CO₂)削減につながるとしている。